

編集後記

2016年の最終号、第62巻第4号をお届けいたします。本年の後半になって医療に関わる非常に残念な出来事がいくつか起こったことが記憶に残っています。7月26日未明に神奈川県相模原市の障害者福祉施設で発生した殺傷事件は、大量殺人事件として戦後最悪レベルの犠牲者数となっただけでなく、被疑者の障害者に対する過激な差別的発言が社会に大きな衝撃を与えました。また、9月19日にはフリーアナウンサーが人工透析患者に対するひどく差別的な文章をブログに掲載し、社会問題となりました。

これらに共通するのは、高度に発展した現代の医療システムが抱える様々な矛盾に対して、極めて短絡的に反応する態度ないし思考です。確かに現代医療は数多くの矛盾をその内部に抱えています。決して現在そして過去の医療関係者の多くが怠惰・非倫理的であったわけではありません。むしろその多くが誠実に目の前の患者を救おうとしていたから「こそ」、複雑な医療システムの中で無理と矛盾が生じてしまったとも言えるのではないのでしょうか。

日に日に複雑多様化していく人間社会の中で、より多くの人々の生活をより良いものしようと願うのが医療活動であるとするのなら、求められるのは特定の人達や組織・システムなどを一方的に断罪することではありませんし、また神聖絶対化することでもありません。そしてそれは、医療史の研究を通して私が学んできたことでもあります。

(松村 紀明)